

令和3年度卒業式 学長式辞

愛媛大学長 仁科 弘重

換気のために開けた窓からの外気にあまり寒さを感じなくなり、晴れの日の日差しに暖かさを感じるようになってきました。新型コロナウイルスは未だに収束する気配をみせておりませんが、春の訪れを感じる中で、こうして2年ぶりに、卒業生全員が一堂に会した卒業式を挙行できますこと、大変嬉しく思います。

ご卒業おめでとうございます。心から、お祝いを申し上げます。

本日は、卒業生のご家族、関係の皆様方には、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、この会場においでいただくことは叶わず、録画した動画をご覧いただくこととしております。保護者の皆様には、お子様のご卒業をお喜び申し上げますとともに、これまで本学に賜りましたご支援に対しまして、この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

また、通常であれば、多数ご臨席をいただいておりますご来賓の方々も、本年は、愛媛県の田中副知事、愛媛大学校友会の高橋会長に、代表としてご臨席いただいております。厚く、御礼申し上げます。

この佳き日にあたり、ただいま、1847名の卒業生に学位記を授与させていただきました。卒業生の多くは、実社会へと羽ばたかれることと思いますが、本学で修得した汎用的能力や専門的知識・技術を活かし、それぞれの進路において大いに力を発揮してくれることを願っています。大学院に進学される方は、それぞれの学術領域で、真理の解明に繋がる基礎的研究や、社会実装にも繋がる応用的研究を進められ、修了後は、研究者、技術者として活躍できる人材となられることを期待いたします。

ここにいらっしゃる卒業生は、3年次、4年次の2年間、本来の大学生活を送れなかったと思います。2年前に、遠隔授業が始まり、新型コロナウイルスの変異株による「波」が来る度に、遠隔授業の割合が多くなり、また、サー

クル活動も制限させていただきました。長い人生の中で4年間しかない大学生活の半分が不本意な生活となり、大変残念に思われていることと思います。コロナウイルスの感染状況が大きく変動する中で、授業、サークル活動、卒業研究などでどのような方針を取るのか。大学としても迷いながらの判断の連続で、これまでの方針が最適なものであったと断言することはできません。また、皆さんの中には「感染回避行動に一瞬のスキを作ってしまった人」がいたことは事実ですが、ほとんどの方が十分な感染回避行動を取っていただいたことに感謝いたします。4月から皆さんは社会人になられますので、これまで以上に自分の行動に自覚を持っていただきたいと思います。

さて、東日本大震災から既に11年が経ちましたが、その間に、「50年に一度」などと表現される集中豪雨を始めとして激甚化する自然災害、2年前からの新型コロナウイルスによる感染症、そして、1カ月前からのロシアによるウクライナ侵攻など、私たちの価値観や生命までも揺さぶる大きな出来事が、次から次へと起こっています。激甚化する自然災害の原因でもあり、私たち人類にとってもっとも本質的に深刻な問題である「地球温暖化」も確実に進んでおり、「脱炭素」への取組みが待ったなしの状況になっています。

まず、新型コロナウイルスによる感染症については、「もしかしたら、現在のオミクロン株が、実質的最後の変異株となり、その後は、インフルエンザレベルの感染症になってくれるのでは？」との希望的観測もあります。コロナ禍によって、テレワーク、遠隔授業、会食の制限など、私たちは、これまでとは異なった行動様式、生活様式を強制的に体験させられました。

ちょうど、コロナ禍が起こったのが、世界的にある程度のネットワーク環境が整備されていた時期であったことは、不幸中の幸いだったと思います。私たちは、コロナ禍の体験により、デジタル技術によって物理的距離を乗り越えられること、そして、これまで考えられてきた地理的有利、不利が絶対的なものではないことを認識することができました。働き方改革の中で「ワーク・ライフバランス」ということが言われますが、今後は、私たちがどこで、どのような形で「ワーク」し、どこで「ライフ」するのか。選択の自由度が

高くなったと思います。皆さんも、人生100年時代とも言われる長い人生を、どこで、どのように生きるのか。コロナ禍を体験し、愛媛県という地域に縁（えん）のあった皆さんには、わが国における地域創生を進めるという観点からも考えて欲しいと思います。

ロシアによるウクライナ侵攻に関して、3月7日に学長メッセージを出させていただきました。世界共通の第一義的価値観である「民主主義」「人命、人権の尊重」が踏みにじられ、憤りを感じます。

このロシアによるウクライナ侵攻については、「第三次世界大戦」という言い方もされますが、「第一次情報大戦」という言い方もされます。確かに、戦車も戦線に出っていますが、情報技術の急速な進歩にも驚きを禁じ得ません。また、経済制裁の中で、世界中でいろいろな物品が調達できなくなっています。要するに、世界は、私たちが考えていた以上に、経済的には一体化していたということもわかりました。

いずれにしても、一刻も早く、ウクライナの人々が、生命の危機から解放されることを望みたいと思います。

さて、もっとも重要な「地球温暖化」「脱炭素」についてです。

「脱炭素」というと、まず最初に、さまざまな新技術の開発による「化石燃料の消費量削減」がイメージされます。太陽光発電、電気自動車などです。

しかし、脱炭素は、私たち自身の行動様式を変えることでも、少しずつ貢献ができます。皆さんも知っていると思いますが、牛肉1kgを生産するのに必要な穀物は、トウモロコシ換算で11kgです。また、牛肉のステーキを1kg作るのに必要な水は15500リットルで、野菜であるトマト1kgを作るのに必要な水200リットルの77倍です。私たちは、アメリカ産の牛肉を食べることと、国産の大豆を原料とした豆腐や納豆を食べることの違いを、「脱炭素」の観点からも再認識する必要があります。このように、「脱炭素」は、技術開発だけではなく、行動様式を変えるなど、私たちが直接係われる部分も多くあります。

また、地球レベルから地域レベルまで、物質やエネルギーの循環システム

やローカルな経済循環など、政策面からも貢献できることも多くあります。これまでの「物質的豊かさ」を求める社会から、「自分の心や行い」「他（ほか）の人との関係」の豊かさを求める社会に変革し、地球にこれ以上の負荷を掛けないようにする必要があります。

「脱炭素」と「DX、デジタルトランスフォーメーション」を関連付けて言えば、「食料、エネルギー、物質を地産地消する」ことを理想とし、「ローカルな経済循環を地域ごとに構築して、私たちの生活はそこで対応し、人類ならではの知的活動については、デジタルネットワークでグローバルに繋がる」このような世界に変わることが期待されていると思います。

卒業生の皆さん方は、地球上に人類が生存し続けるために、新たな価値観を創造し、その価値観に基づいた社会システムを構築することが求められる時代を生きることになります。世界を、物質的豊かさのみを追い求めるのではない世界に変える。大変、責任の重い世代だと思いますが、他の多くの世代を巻き込んで、人類の発展に貢献して欲しいと思います。

この数年の多くの困難を、20歳前後という、人生でもっとも感受性の高い時期に体験されてきた皆さん方であれば、このような変革の時代に大きな貢献ができると、期待させていただきます。その貢献に、愛媛大学で学んだことを少しでも役立てて貰えれば、大変嬉しく思います。

最後に、お手元にある卒業式のパンフレットには、愛媛大学の学歌が掲載されています。

学歌の3番の最後ですが、「いざ、あらた代の 図（ず）」この「図（ず）」は「ふみ」と読みますが、「図面」「計画」「設計図」という意味です。その続きの、「負いて」の「負う」は、「背中や肩にのせる」「身に受ける」「引き受ける」の意味です。

要するに、「新たな時代の設計図を背負って」という意味になります。

最後の部分をまとめると、「新たな時代の設計図を背負って、明るい道を進もう」ということになります。

「あらた代の図（ふみ）負いて、明るき道をただに進まむ」

この言葉を皆さんへのはなむけの言葉とし、私からの式辞といたします。
本日は、ご卒業、おめでとうございます。